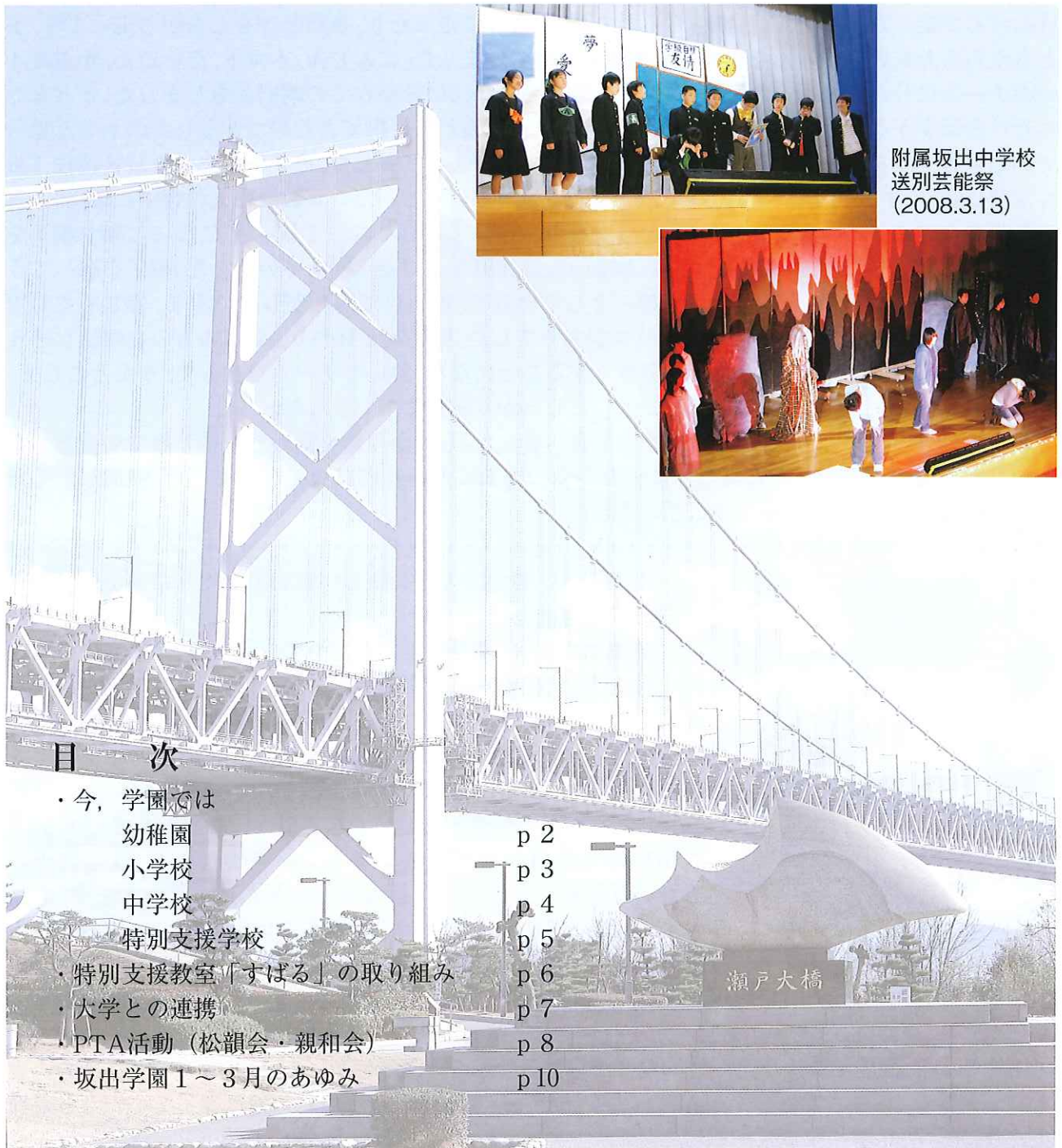


香川大学教育学部

# 附属坂出学園だより

第29号

2008.3



附属坂出中学校  
送別芸能祭  
(2008.3.13)



## 目次

- ・今、学園では
  - 幼稚園 p 2
  - 小学校 p 3
  - 中学校 p 4
  - 特別支援学校 p 5
- ・特別支援教室「すばる」の取り組み p 6
- ・大学との連携 p 7
- ・PTA活動（松韻会・親和会） p 8
- ・坂出学園1～3月のあゆみ p 10



## がんばったミニ運動会



2月20日、ミニ運動会が行われました。朝から晴れ、春を思わせるようなぽかぽか陽気で絶好の運動会日和でした。

まずは準備運動。トンガリたいそうの曲に合わせて体をほぐした後、マラソンをしました。いつもは子どもたちだけですが、この日はお家の人と一緒に園庭を走りました。体が温まったところで、競技開始。はじめは親子競技です。黄組さんは「あったかおんぶ&けんけんリレー」、赤組さんは「サンドイッチたまはこび&トラックリレー」、青組さんは「なわとびリレー」をしました。お家の人とけんけんで走ったり、おんぶしてもらったり、抱き合って走ったり、なわとびをしながら走ったり、子どもたちもお家の人もみんなすてきな笑顔を見せていました。にんじん、トマト、だいこん、かぶの4つのチームに分かれて玉入れをした後、クラスごとに赤白に分かれての綱引きをしました。子どもたちだけのはずが子どもたちが出てくると同時にお家の人たちも出てきたのでどうしたのかなと思っていたらカメラを持って撮影体勢に。応援も撮影も力が入ってました。そしていよいよ最終競技「おんぶ騎馬戦」です。クラスごとに赤白に分かれてしまいました。子どもたちがお家の人のお背中へ騎乗し、塩田先生の合図でスタートしました。子どもたちはお家の人におんぶしてもらい、にこにこ顔で帽子を取り合っていました。馬になっているお家の方は真剣な顔で走り回っていました。帽子を取ってうれしそうにしている子、取られないでほっとしている子、取られて悔しがっている子、悔しくてお母さんの胸で泣いている子、いろんなドラマがありました。騎馬戦が終わり、お家の方の名残惜しそうな様子を見て、急遽お家の人同士で綱引きをすることになり、急いでチームを作って、うんとこしょ、どっこいしょ。子どもたちも「がんばれー！」としっかり応援していました。



ミニ運動会の後、みんなで園庭でおやつを食べました。しっかり体を動かした後のおやつはとてもおいしかったのか、たくさん用意していたおやつはあっという間になくなりました。参加してくださった保護者の皆様、ありがとうございました。

## 楽しかったお別れ遠足



2月25日、青組さんとの楽しい思い出づくりに角山へお別れ遠足に行きました。

園庭に集まり、園長先生のお話を聞いた後、角山へ向けて出発しました。幼稚園から登山口までの道のり、青組さんと黄組さんで仲良く手をつないで歩いていきました。黄組さんの手を優しく引いてあげたり、黄組さんの歩調にあわせてゆっくり歩いてあげたりしていた青組さん。これまで何度も黄組さんと一緒に歩いたり活動したりしてきたから自然と心遣いできるようになったんでしょうね。

登山口からは自分のペースで登っていきました。何度も角山に登っている青組さんは慣れたものでどんどん進んでいきます。赤組さんも負けじとついていきます。黄組さんは角山登山は初めてにも

かかわらず弱音を吐かずがんばって登っていきます。そんな子どもたちの姿に1年間の成長を感じるとともに頼もしく感じました。山頂に着いて、記念撮影をしたり、おやつを食べたり、遊んだり、よもぎを取ったりして楽しい時間はあっという間に過ぎました。

園に帰って、園庭でみんなと一緒に食べたお弁当はとてもおいしかったです。今まで幼稚園の一番上のお兄さん、お姉さんとしてがんばってくれた青組さん、ありがとう。一緒に登ってくださった保護者の皆様、ありがとうございました。

# 「思考力」をはぐくむ学びの創造

## —脳神経科学研究との連携—

附属坂出小学校では、「思考力」育成に必要なだと考える思考様式を長期記憶化することのできる授業づくりをめざし、研究を続けています。これまでに各教員が自分の研究教科でそれぞれ授業公開を行い、その有効性について検証を重ねてきました。

また、2月4日（月）には香川大学の先生方等をお招きし、「大学との共同研究会」を開催しました。今回の研究会は、香川大学「授業づくり・授業改善に向けた教師の『評価力』向上に関する研究プロジェクト」の一環としても行われ、附属教育実践総合センターの先生をはじめとする多くの方から貴重なご意見をいただくことができました。

以下に、今学期実践しました授業の一端をご紹介します。

### ◆ ◆ ◆ ◆ ◆ 研究授業 ◆ ◆ ◆ ◆ ◆

1 東  
生活科

2月4日 「みつめよう つたえよう いまのわたし」

大山 貴久

大学との共同研究会

子どもが自分を振り返り、成長に気付くことができるのは、今の自分と前の自分を比較した時です。その際、自分を変容してきた「過程」に着目することで、自身の努力や、支えてくれた人々の存在が分かり、感謝の気持ちやこれからの成長への願いをもつことができるようになります。しかし、子どもは成功した経験についてのみ振り返ることが多いため、「結果」の印象が強く、「過程」での姿をはっきりと捉えることができません。そこで、自分自身の努力に着目して「過程」を捉えることができるようにするために、子どもがまずまずを経験している「得意技づくり」の活動について、自分への賞状をつくる学習を行いました。

授業では、振り返りの視点が見つからないで迷っている友だちの賞状を、一緒に考えることで「がんばったことを思い出す」という視点を見出しました。そして、その視点で自分の姿を振り返ることで、「失敗してとても悔しかったけれど、あきらめずに毎日練習を続けたことが私の素晴らしいところだよ。」と、自分の努力の過程をはっきりと捉えることができました。



5年  
理科

「もののとけかた —水にとけたもののふしぎをさぐるう—」

樽本 導和

「ものは水にとけても重さは変わらない」という質量保存の学習は、これまで、定量的にとける前後の重さを測定し、規則性を見いだしてきました。しかし、「形あるものが見えなくなる＝重さがなくなる又は軽くなる」という消えにくい誤概念も同時に存在し、長期把持しにくいと言われています。そこで、電子てんびんの上で重さを測定しながら、とけて見えなくなる過程が詳細に観察できるような実験を行い、重さの測定結果ととける様子をつなげて考察していく活動を行いました。

子どもたちは茶こしの中のコーヒーシュガーから出るもやもや（シュリーレン現象）が落ちていく現象、下半分が褐色の層に上半分が透明な水の層に分かれる現象、攪拌するともやもやが全体に広がる現象を電子てんびんの上で観察していきました。そして、観察した様子と重さの測定結果を粒のイメージ図に表現し説明しました。粒の数が変わらないことで質量保存を、粒を下部に描いたり全体に広がるように描いたりすることでとける様子を共通に捉えていきました。重さと様子の両側面から考察できたようです。



# 研究大会に 向けて

## 研究主題

# 「生きること」と「学ぶこと」の統合をめざして

## —学びの拡充を促すシャトル学習の開発—

■ 質問事項に対する調査結果（「当てはまる」、「どちらかといえば当てはまる」と答えた生徒の割合）

数学の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか	本校87.2%（全国68.9%）
国語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか	本校94.1%（全国84.6%）
新しく習った漢字を実際の生活で使おうとしていますか	本校74.3%（全国58.9%）
数学の授業で学習したことを普段の生活の中で活用できないか考えますか	本校41.0%（全国30.6%）

これは、昨年4月に中学3年生を対象に実施されました全国学力・学習状況調査の生徒質問紙の結果です。本校は、全国よりも数値が高いものの、将来は役に立つが、今そのことを何のために学んでいるか実生活との関わりにおいては、十分実感していない生徒が多いように思われます。そこで本校では、教科においてなぜ学ぶのかを生徒に実感させる「学びの意味化」の授業の教材開発と学んだことが長期的に生徒の記憶に残せるようにと単元を貫く概念に着目した「概念形成」の在り方を模索しております。また、文部科学省より研究開発指定（平成18年度～平成20年度）を受け、異学年合同の発展的な学習（シャトル学習）を通して、個の発達や学びに適応した教育システムとしての新しい教育の在り方について研究しております。以上のことを今年6月の教育研究発表会で提案していくつもりでございます。忌憚のないご意見・ご感想を頂戴し、子どもたちの教育のために生かしていきたいと思っております。研究発表会を通して、教科内容面だけでなく、学習に取り組む姿勢や人と接するときの心構え等についてもご家庭と協力をしていきたいと思っておりますので、ご協力よろしくお願いいたします。

### 平成20年度 教育研究発表会

日時 平成20年6月13日(金) 9:00～16:40

#### 内容

- ▶ 全体提案
- ▶ シンポジウム(シャトル学習について)
- ▶ 公開授業Ⅰ(各教科におけるシャトル学習)
- ▶ 公開授業Ⅱ(各教科における概念形成及び意味化の授業)
- ▶ 教科提案ならびに授業討議
- ▶ 講演「新しい教育基本法と教育改革」  
独立行政法人 国立青少年教育振興機構  
理事 田中壮一郎先生(前文部科学審議官)

# 送別芸能祭に 向けて



大道具・小道具の製作風景



役者の人たちの練習風景

1年団は『河童の涙』を上演します。日常の学校生活の中でありがちな問題を取り上げ、河童の目を通して、今一度その問題を見つめ直していきます。卒業される3年生の皆さんに、中学校生活を振り返ってもらいながら、「思いやり」や「優しさ」とは何かについて、考えてもらえたら…と思っています。初めての送別芸能祭に向けて、ビデオを見せてもらった昨年、一昨年先輩方の演劇に少しでも近づけるよう120名が一丸となって頑張ります。

2年団は『ここにしか咲かない花』を上演します。今年のテーマは「命」。数えきれない中から選ばれた4つの命。これから生まれるこの4人は、生まれてからの自分たちの未来を知ってしまう。未来を受け入れ生まれるか、受け入れられず消えてなくなってしまうか…。今年の2年団の目標は「自己満足をするのではなく、見てくれる人、聞いてくれる人に感動を与える」。去年よりも素晴らしいものを目指し、1つの劇を創り上げていきます。ここにしか咲かない118輪の花を見事に咲かせ、みなさんに感動と心の花束をお届けします。

# 親子で体験 地震避難訓練



いつ起きるか分からない大地震。この10年間で起きた震度6以上の地震は19回以上、年に2回の割合で起きているのです。そこで、本校では本年度安全教育を学校重点課題として取り上げ、2月8日に地震と火災を想定した避難訓練を保護者とともに行いました。勿論、「家庭での地震対策は万全」というご家庭もあるかもしれません。しかし学校の地震対策や学校で用意した防災グッズを紹介したり、一緒に避難体験をしていただいたりすることで、一層防災教育に対する関心を深めていただくよいチャンスにしていこうという試みでした。

また、評価を頂く良い機会としてとらえ、学校評議員の皆様や、香川大学の専攻科の教育実習生、保護者の方13名に評価項目をチェックしていただきました。

保護者に防災マニュアルを紹介  
シュミレーション



机の下にもぐって  
頭部を保護



防災ずきんの  
練習も完璧



防災グッズも31品目用意

落下物, 障害物にも冷静に



全校生と保護者で消防署の方の話を聞く



親子で  
起震車体験



評価チェックも受けて、  
今後の避難訓練に  
役立てます

保護者や学校関係者の方の評価(到達3)

状況	チェック項目	評価平均
地震発生	指示に従って、すばやく机の下などにもぐれたか。	3
	机の下などで、揺れがおさまるまで静かに待てたか。	2.9
火災発生	指示に従って、防災ずきんなどですばやく頭部を保護できたか。	3
	煙を吸わないように、ハンカチ等が使えたか。	2.3
避難待機	避難時の約束事「おはし」を守って安全に避難できたか。	2.8
	指示に従って整列し、静かに待つことができたか。	2.8

(一部抜粋)

高等部は  
防災をテーマに総合学習



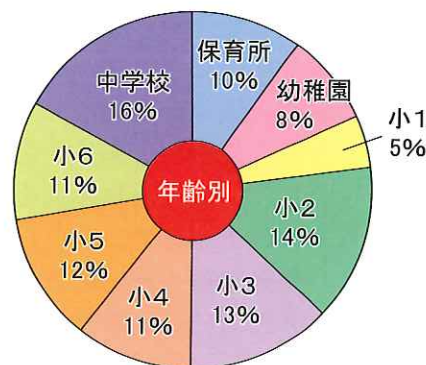
豚汁炊きだし  
体験も...

仮設段ボール小屋の暖かさも体感

## 19年度 特別支援教室すばるの取り組み

本年度の申し込み状況は、20年2月20日現在、幼児が31名、小学生が110名、中学生が29名、総計170名です。この内、第1期～第4期の個別指導を受けた人数は、78名の子どもたちです。また、個別指導以外の保護者の方々には、個別相談や電話相談を実施してきました。年々、保護者相談の内容が複雑になり、単に学習支援だけでよいケースは少なくなり、対人関係や集団のルール、進路等についての相談が多くなる傾向にあります。一方、担任からの相談も増え、保護者と同様に学習面以外の対人関係等の相談が多くなってきています。今後は、個別指導だけでなく、相談支援の機会を増やし、きめ細かい支援の必要性を実感しています。

以下に、すばるで、1年間の内地留学の研修を受けている先生方から、コメントをいただきました。



### 《県立養護学校からの研修生より》

現在は第4期の個別指導期間中です。今回は、料理が好きで将来は調理師になりたいという目標をもっている中学生に対し、調理を中心に指導内容を組み立ててみました。具体的には、本人の好きな調理実習をしながら、材料や道具等の名称を、日本語や英語で正確に答えたり、材料の生産地(国)を調べたり、インターネットでレシピを検索したり、そのために、日本語をローマ字で書き表したり、レシピを見て、指定された人数分の材料を計算したりなどの内容に取り組んでいます。60分の指導時間であること、指導回数もわずか10回であること、家庭科室や調理室のような本格的な機器をそろえているわけではないことなどから、メニューは制限されてしまいますが、「ご飯もの・デザート」、「中華・洋食」、「スプーン・フォーク」のような選択肢を用意しながら、自分でメニューを決めて製作しています。この生徒はこれまでに、チャーハンとフルーツポンチを作りました。完成すると、まず、保護者の方に試食していただいています。こちらの不安をよそに、本人はとても自信ありげにその反応を待っているのです。指導者としてその様子を見ながら、ほっと胸をなで下ろしてから、おいしくいただいています。

### 《公立小学校からの研修生より》

多くの新しい出会いがありました。特にたくさんの児童と知り合いました。初対面の時にはお互いに緊張しています。今から何が始まるの?という、不安な気持ちが手に取るように伝わってきます。指導が終わって帰る時に「バイバイ。また、来週ね。」という言葉が聞くと、こちらの緊張も解けていくのがわかりました。指導を重ねていくうちにお互いの理解も深まっています。最長でも10回しか会えないので、1回の指導の1時間がとても大切な時間です。一人一人の児童を思いながら教材を準備してきました。活動が多くなりすぎたり、反対にもう少し難しい内容にした方がよかったりなど実践してみないとわからないこともあり、1つ1つが貴重な経験でした。

苦手なことの克服は容易ではありません。放課後で疲れている時もありました。しかし学習の予定に従って、プリントやパソコンをしたり、ゲームをしたりと一生懸命取り組んでいる児童たち。彼らと一緒に活動を楽しんだり喜んだり、たくさんの思い出と共に励まされてもきました。これからも日々の実践を大切にしながら、研修を積み重ねていきたいと思っています。もうすぐ学年が1つ上がります。みんなの笑顔を思い浮かべながら、いつの日にか近況が聞けることを楽しみにしています。

## 授業づくり・授業改善に向けた教師の 「評価力」の向上に関する研究プロジェクト

香川大学教育学部  
附属教育実践総合センター 准教授

山岸 知幸

附属教育実践総合センターでは、毎年、研究プロジェクトを立ち上げ、附属学校園の先生方をはじめ、学外の方にも広く参加を呼びかけております。これまでは、センター所属の専任教員がそれぞれの専門性を生かしたプロジェクトを立ち上げてきました。平成19年度は、2本の研究プロジェクトを立ち上げましたが、その一つの研究プロジェクトである「授業づくり・授業改善に向けた教師の『評価力』の向上に関する研究プロジェクト」(2年間)は、専任教員がそれぞれの専門性を生かしつつ協働して、一つのテーマに取り組むという横断的・総合的な研究プロジェクトです。センターとしても新しい試みです。附属学校の先生方や本学部教員、また香川県教育センターの先生方のご参加もいただき、33名での大きなプロジェクトになりました。

「評価力」ということばは耳慣れないことばではないでしょうか。近年、盛んに「力」ということばが用いられます。「力」とは、ある意味で時代を反映したことばなのかもしれません。この研究プロジェクトで用いている「評価力」とは、「より望ましい授業づくり・授業改善に向けた自らの授業を自己点検する力」と規定しています。教育現場において、児童生徒にわかる授業、楽しい授業を展開することは、学力の向上はもとより生徒指導面からも重要な課題となっています。児童生徒の学びを確かなものにするために、教師の実践的指導力が強く求められています。こうした問題意識に立ち、より望ましい授業づくりに向け、自らの授業実践を振り返りつつ、よりよい授業を作っていける(授業改善の「力」を向上させていくために、一つの方略として、校内研修(校内授業研究)に焦点を当てて研究を進めようとするものです。

本年度はすでに4回の検討会をもちました。県教育センターの先生方からは、香川県の校内授業研究における意識・実態調査の結果やそれを通じた教師の指導力向上に関わる研究成果を発表していただきました。各附属学校からはそれぞれの学校で現在行われている授業改善の取り組みを紹介していただきました。また、附属坂出小学校と学部教員との合同研究集会にも参加させていただき、附属坂出小学校が取り組んでいる校内授業研究の「授業リフレクション」の有効性など、多くの示唆を得ることができました。

これらをもとに討論を重ね、次年度は、教師が自分の授業を客観的に捉えること(メタ認知)と、あらたな改善策を見出していくこと(授業改善)ができるような校内研修(校内授業研究)の在り方を、実践を通して明らかにしていくことになりました。具体的には、各附属学校でのこれまでの校内研修(校内授業研究)を生かしつつ、他の附属学校の取り組み(実践・方法)や県教育センターの研究成果を参考にして、校内研修(校内授業研究)の在り方についての実践的検討を行うこととなります。

新学習指導要領の告示も間近にせまり、保護者の方の中にも、先生方の中にも様々な不安があるのではないのでしょうか。そして今後より一層、教師への期待は高まってくるでしょう。たとえ学習指導要領が改訂されても、児童生徒が楽しい学校生活をおくり、確かな学力を身につけていくことができることを目指す教育には変わりありません。教師の実践的指導力形成を目指す校内研修(校内授業研究)の一つの在り方を提起できればと思っております。こうした研究においては、各附属学校の先生方のご協力なくしては成立しません。今後とも、附属学校の先生方のご協力をいただきつつ、協働的・実践的な研究を進めてまいりたいと思っております。どうぞよろしくお願い申し上げます。



幼稚園より



2月12, 15日 青組保護者により、卒園に向けての準備でもあります“コサージュ作り”が行われました。今年度は、“プリザーブドフラワー”を使ってのコサージュとなりました。

園児用(男の子、女の子)と保護者用の花の色は、それぞれが希望の物を選択したのですが、花の組み合わせ方・向き・配置によって雰囲気も変わり思い思いの作風に仕上がりました。園児達は、心のこもったコサージュを胸に卒園式に臨んでくれることでしょう。

2月27日 “青組お別れおやつパーティー”が開催されました。青組園児にとっては、みんな

で食べる手作りおやつ(食事)は、最後となりましたが、とても楽しい時間となりました。また、前日・当日の企画・準備を役員・常任委員さんを中心に保護者のみなさんと協力し合い、保護者にとっても卒園前の楽しい行事となりました。



コミュニケーション  
型抜き寿司  
おすまし  
(具:わかめ・麩)  
牛乳ゼリー



小学校より

土曜メンテナンス活動報告

小学校ではうがい・歯磨きを毎日していますが、これまで校内には歯ブラシ・コップを保管する場所がなく雑然としたままでした。また、体育館正面の左右の壁もひび割れ、はがれが激しく痛んでいる状態でした。



プロじゃありません。ボランティアです!!

歯磨き台においては昨年に学校からの要望もあり実現したく模索しておりましたところ、予算も付けて頂き2/16(土)2年ぶりに土曜メンテナンスを開催しました。当日は多数の保護者と先生方がボランティアとして参加して頂き、お母さん方もベンチ、ドライバー等の道具を使って奮闘し、楽しく作業ができました。コップ&歯ブラシ台は保護者の会社で設計しパーツも作っていただきました。組み立ても保護者立案の道具を準備し、パーツの研磨から加工、組み立てまで全て保護



各クラス1台、合計12台完成です!!



者の手作りで全12セットを製作しました。

体育館の壁もプロ顔負けの作業で見違えるようになり3月の卒業式を迎えることができるようになりました。参加して頂きました保護者の方々にはハードだったと思いますが、「やりがいがあり参加してよかった」「先生方といつもと違う会話が出来て良かった」等の感想を頂き、児童・保護者の皆様にとって良い事業を開催することができました。

参加して頂きました方々、本当にお疲れ様でした!!

## 中学校より.....

2月4日、1993年に世界遺産に登録された屋久島への修学旅行の説明会が行われました。進路説明会も同時にあり、屋久島ネイチャーガイドの方をお迎えした事前学習にも参加でき、屋久島の魅力を生徒と一緒に体感することができ、大変好評でした。

2月8日には、島原先生のセミナーが行われました。同じ思春期の子供を持つ親同士の悩みや情報交換の場所がたくさんあれば、意思の疎通もスムーズにいくのかな? と感じました。これからも、同様の活動が続けていけるよう、皆様のご理解とご協力をよろしくお願いします。

お互いの顔の見えるPTA活動を目指し、3月1日には、初のPTA研修旅行(総勢37名)が計画され、人と防災未来センターを視察し、神戸北野ホテルで、ランチやスイーツを満喫しました。中学校入学以来、普段顔を合わす機会の少ない保護者・先生との情報交換と深い親睦が図れました。3年生の保護者にとっては開催の時期が3月でなければとの声も聞かれ、今後の検討課題となりました。



## 特別支援学校より.....

### 親和会

親和会は、本部を中心に5つの部に分かれて活動しています。

その中でも、行事部では、子どもたち・家族・先生が一緒になって楽しく過ごせるイベントを企画・運営しています。春の運動会ではかき氷販売。夏はバーベキュー大会。秋はふれあい祭りで「うどんやさん」のバザー...

今回は、一年の最後の行事である「ボウリング大会」をご紹介します。先日、2月9日に坂出中央ボウルにて開催しました。当日は、みぞれまじりの雨が降り、とても寒かったのですが、参加された皆さんは寒さもな



んのその。元気一杯プレーをする事ができました。ストライクをとってガッツポーズをする子、お家の方と一緒に楽しくボールを投げている子、子どもたちよりムキになってストライクに大喜びするお母さん、プロ級の腕前の先生。

これからもたくさんの人たちに楽しんでもらえるよう行事部全員が力をあわせてやっと思っています。



防煙教室

2月29日(金)に3年生を対象に防煙教室が開催されました。講師に本校OBであり、高松赤十字病院の森田純二先生をお迎えして、タバコの害についてさまざまな角度からお話をいただきました。講演後は、「タバコがここまで害があるとは知らなかった。」「これから先大人になってもタバコは吸いたくない。」という意見が多く聞かれました。



PTA研修旅行



3月1日(土)にPTA研修旅行がおこなわれました。最初に、「阪神・淡路大震災記念、人と防災未来センター」に行きました。震災のすさまじさ、いのちの尊さ、そして共に生きることの素晴らしさを感じました。また、ホテルでのお昼のランチ、中華街散策なども楽しみ、有意義な親睦旅行となりました。

中学校

附小フェスタ2008(2月6日(水))

1年間の総合的な学習の時間や生活科の学習の成果を発表する場として、「附小フェスタ2008」が



開催されました。開幕は全校合唱で、475名が心を一つにして美しいハーモニーを奏でました。



合唱に引き続き、各学年ごとに劇やポスターセッション等で、これまでの学習の成果を発表しました。

なお、来年度は研究会を1月末に開催するため、附小フェスタは2学期に変更する予定です。

学生ボランティア



現在本校では、亀山ユミさん(教育学部4年:学習指導体験隊)、長原有里さん(教育学部4年:学習指導体験隊)、三谷沙織さん(教育学部2年:英語活動体験隊)の3名が、学生ボランティアとして参加してくれています。亀山さん「教育実習とは違う感じで、子どもたちと一緒に過ごす事ができて楽しかったです。」長原さん「心にゆとりをもって楽しみながら、子どもたちと接し、学ぶことができました。」三谷さん「子どもたちと一緒に英語を学べる大変良い機会を与えていただきました。」

このような機会を自ら求めてくる学生に対して、教師としての実践力の育成に少しでも貢献できれば…と考えています。

小学校

特別支援学校



やまもも教室

本校では、平成6年度より就学前の相談事業として、「やまもも教室」を実施しています。

育ちに遅れのみられる子どもとその保護者、またそういった子どもにかかわっておられる先生方を対象に、養育や保育の仕方などについて共に考え、子どもの自立を支援していくことを目的に、毎月1回(主に土曜日)に開催しています。

香川大学教育学部の先生方のご協力を得ながら、今年度より特別支援教育相談事業と名称を改め、対象を小学生まで広げ、地域の方々へのニーズに応えるよう様々な情報を提供しています。

今年度は、本校の施設参観や講演会、保護者の情報交換会、検査等による個別相談等を実施しました。また、1月には専門の講師を招いて、コミュニケーショングッズ作りのワークショップも開催するなど好評でした。

〔詳細は、本校「やまもも教室」ホームページをご覧ください。〕

岡山大学教授 佐藤暁先生  
「子どもの困り感に  
寄り添う支援のあり方」



幼稚園

生活発表会



1月26日、幼稚園で生活発表会がありました。インフルエンザがはやった時期でもあり十分な練習時間はとれませんでした。各組とも合奏や歌、劇などよく頑張っていました。今年の特徴としては青組が創作劇を行ったことです。「にんじゃむらのだいぼうけん」は忍者の子どもが数々の修行をしたり、宝の山を探しに行ったりという展開のお話で、子ども達の意見や思いを大切にしながら構成した劇に仕上がりました。友達と一緒に協力しながら創り上げていく楽しさを学んだことでしょう。

かぶスープづくり

2月4日、黄組がスープをつくりました。「大きなかぶ」の劇あそびを生活発表会で披露した黄組さん。「かぶを抜きにおいて」と青組さんが黄組さんを畑に誘ってくれました。黄組が劇を頑張ったごほうびとして…。野菜を包丁で切るのは初めてですが、食べやすい大きさに一生懸命切っている姿がありました。



みんなでつくったスープ、それはそれはおいしかったよ。

編集後記

平成19年度も終わりに近づいています。子どもたち一人一人が、様々な面で活躍し、健やかに成長できた1年間であったと思います。

卒園・卒業を迎える皆様には、新しい環境でのご活躍を、心からお祈りしています。また、新しい学年を迎える皆様には、今年度学んだことをもとに、さらに成長されることを期待しております。

平成20年度、中学校は6月、小学校は1月、幼稚園は10月に研究大会を予定しております。また、特別支援学校は2月に公開授業研究会を予定しております。来年度も、皆様方からのご協力、ご支援をよろしく申し上げます。

発行年月日：2008年3月18日

発行事務局：附属坂出小学校内

塩田 知子 (附属幼稚園)

横山 新二 森山 敬三 (附属坂出小学校)

環 修 木谷 直充 (附属坂出中学校)

岩本 豊 樫尾由美子 (附属特別支援学校)